

飛躍

静岡県東部地域の活性化を考える

平成18年度のおゆみ

 サンフロント21
懇話会

CONTENTS

● ごあいさつ	3
● 平成18年度のあゆみ	4
<hr/>	
● 特集Ⅰ ファルマバレープロジェクト	
第2ステージへ	6
戦略生かしたまちづくりが本格化	8
<hr/>	
● 特集Ⅱ 観光振興	
観光立国推進基本法が成立	10
東部・伊豆観光の新たな芽吹き	12
<hr/>	
● 特集Ⅲ 広域行政の推進	
東部に足りないリーダーシップ	14
<hr/>	
● サンフロントから情報発信	
ラジオEAST	16
新聞特集記事「風は東から」	17
<hr/>	
● 平成19年度活動方針	18
<hr/>	
● サンフロント21懇話会名簿	20
<hr/>	
● 運営委員長挨拶	27



サンフロント21懇話会
代表幹事
スルガ銀行社長

岡野 光喜



静岡新聞社・静岡放送
社長

松井 純

創意と活力にあふれた県東部地域の実現を目指し、官民一体となって活動しているサンフロント21懇話会は昨年度、市町村合併と観光振興への道を探るシンポジウムや政局講演会、今秋開催される技能五輪国際大会に向けた討論会、さらにファルマバレープロジェクト（富士山麓先端健康産業集積）の推進をテーマに掲げたパネル討論会—など、精力的な取り組みを展開してまいりました。

懇話会創設以来、これまでに行ってきた研究・提言が具体的な施策となって地域に取り入れられるケースも目に見えるようになってきました。懇話会が果たしてきた役割の重さを再認識するとともに、地域住民から寄せられる期待に応じていく姿勢もますます重要になってきています。言い換えれば懇話会の存在意義そのものにかかわってくる課題です。懇話会一丸となって取り組んでいく所存ですので、今後もご協力をお願い致します。

ファルマバレープロジェクトを進める富士山麓エリア（沼津市、三島市、富士市、富士宮市、長泉町）が文部科学省の委託事業となる「都市エリア産学官連携促進事業・発展型」の新規実施地域（平成19年度から3年間）に選ばれました。懇話会としても富士山世界文化遺産登録運動と関連づけながらプロジェクト推進を全面的に支援するとともに、伊豆の国市の健康増進事業や富士宮地域のフードバレー事業にも協力していきます。

このほか本年度は技能五輪国際大会の支援と会場跡地の有効利用について、既に沼津市に提言した「ぬまづウエルネス・リサーチパーク構想」の研究にも取り組みます。県中西部に後れを取っているとの指摘を受けている合併問題に関しても議論を深めていきたいと思えます。富士山静岡空港の開港をにらんだコンピューター空港の実現性、富士山と伊豆の温泉・景観を組み合わせた観光戦略の構築も欠かせないテーマです。会員各位のさらなるご協力をお願い致します。

国民議会選挙を経て新たな国づくりが進展するとみられていたイラクは、いまだに自爆テロが横行するなど平和への道のりは険しく、厳しい治安情勢が続いています。中東地域から原油の約9割を輸入する日本にとってイラクの安定は国益上、不可欠の条件であり、情勢打開に向けた長期的かつ粘り強い努力が重要になっています。対北朝鮮に関しては核放棄だけでなく、日本人拉致問題も忘れ去られることのないよう常に国際社会に呼び掛けていく必要があります。さらには、互いに対決姿勢を崩さないイラクと米国の関係も今後、見過ごせない課題といえるでしょう。

国内に目を向けると、第16回統一地方選挙が終わり、各党とも7月の参院選挙に狙いを絞って戦略を講じています。過半数を与野党どちらが制するかが最大の焦点ですが、宮崎県にタレント出身の東国原英夫知事を誕生させた「主役」ともいえる無党派層の動向がつかめないのが実情で、「夏の陣」を占う上でのポイントとなりそうです。

サンフロント21懇話会は光り輝く県東部の地域づくりに向け、昨年度も官民一体となった活動を展開し、観光振興、技能五輪国際大会、さらにファルマバレープロジェクトにまで踏み込んで、さまざまな研究・提言を行ってまいりました。これも、ひとえに会員一人ひとりの熱意によってもたらされた成果であると確信しております。あらためて感謝申し上げる次第です。

さて、いよいよ11月には沼津市を舞台に技能五輪国際大会が開幕します。国内、海外から約15万人が沼津市とその周辺を訪れると予想されています。県東部地域の情報を世界に発信する絶好の機会でもあります。大会支援をはじめ、今後の懇話会事業へのさらなるご協力をお願い致します。

● 平成18年度のあゆみ

ニューヨーク大名誉教授

佐藤 隆三

「米中・日中関係の将来～
中国は怖くない」



静岡新聞社常務取締役

原田 誠治

「活力ある伊豆をめざして」



ユニバーサル技能五輪国際大会
総合プロデューサー

残間 里江子

「いま、なぜ技能か」



政治ジャーナリスト

野上 忠興

「素顔の安倍政権」



日本政策投資銀行顧問

大川 澄人

「ファルマバレーに期待
するもの」



時事通信静岡総局長

加藤 清隆

「都知事選の行方と参院選の展望」



◆18年5月

活動記録「飛躍」発行

平成17年度の活動内容をまとめた冊子「飛躍」(A4判、28頁)を発行した。内容は総会、分科会など活動の足跡をはじめ、ファルマバレープロジェクトの1年間の成果、プロジェクトの東部各地の動き、伊豆のブランド化戦略、東部地区の合併構想の展望と課題など。平成18年度の活動方針も紹介した。

◆18年5月15日

18年度総会(沼津東急ホテル)

代表幹事岡野光喜スルガ銀行社長は「技能五輪国際大会は世界的規模のビッグイベント。ぜひ成功させよう」と協力を呼び掛け、来賓の石川嘉延知事は、サンフロント21懇話会の提言に感謝の意を表し、「引き続き東部地区のために努力をしてほしい」と期待感を。斎藤衛沼津市長は「魅力ある沼津を構築し、多くの人、文化、産業をひきつけたい」と政策論を述べ、協力を訴えた。記念講演は、ニューヨーク大名誉教授佐藤隆三氏が「米中・日中関係の将来～中国は怖くない」と題して行い、中国の政治、経済体制を考えると、中国を慌てて仮想敵国に見立てるのは非常に危険であるとの持論を展開した。

◆18年7月4日

第12回伊豆地区分科会(ホテル伊豆急)

「地域振興シンポジウム」として伊豆南部の合併、観光振興を探る目的で開催した。下田商工会議所、賀茂地区商工会連合会共催。効果的な観光振興策を議論し、このままでは財政破綻しかねない伊豆南部の合併のあり方を模索した。原田誠治静岡新聞社常務が基調講演し、桜井泰次河津町長、萩原聰治下田商工会議所会頭ら4人がパネリストを務めた。

◆18年10月26日

第12回東部地区分科会

(ホテル沼津キャッスル)

「静岡のわざ世界へ～技能五輪沼津国際大会を前に」がテーマ。ユニバーサル技能五輪国際大会総合プロデューサー・残間里江子さんが「いま、なぜ技能か」と題して基調講演し、ものづくり復権を唱えた。技能者が、尊敬の対象になるような価値観を再び浸透させていきたいと語り、大会への見学を呼び掛けた。会場には、国内の技能五輪で優勝し、国際大会への参加権を手にした2人の若者も登場した。



■東部地区分科会

◆18年11月29日

運営委員会全体会 (三島プラザホテル)

ファルマバレープロジェクトの推進支援、第39回技能五輪沼津国際大会の支援強化と跡地の有効利用検討、伊豆の観光振興支援など4項目の19年度活動方針案を提示した。議論の結果、観光振興では富士山静岡空港の開港に伴い富士山見学の外国人が増加すると見込まれるため、観光振興に「富士山」を加えることで一致し、来年1月の運営委員会に再提案することで合意した。

◆18年11月29日

第12回全体会 (三島プラザホテル)

政治ジャーナリスト野上忠興氏が「素顔の安倍政権」と題して記念講演した。野上氏は、長期政権を目指す安倍首相の狙いは憲法改正と断じ、政権基盤固めが重要となっている。しかし、上々の滑り出しだった政権は復党問題などで世論離れが起き、求心力を失いつつあると分析、巻き返す手段として「戦う政治家」としての存在感を内外に示すことが必要と論じた。

◆19年1月30日

運営委員会全体会 (スルガ銀行知求塾)

ファルマバレープロジェクトの推進支援、第39回技能五輪沼津国際大会の支援強化と跡地の有効利用、合併を含めた広域行政の推進支援、富士山・伊豆地域の観光振興の19年度活動方針を確認した。2月の富士地区分科会、3月の幹事・運営委員と東部選出県議団・市長町長連絡会議、5月の総会の概要説明も行われた。

◆19年2月15日

第12回富士地区分科会

(ホテルグランド富士)

ファルマバレープロジェクトの“癒し”の部分に注目し、文化・芸術、富士山を中心とした景観がプロジェクト推進に役立つことを報告した。テーマは「ファルマバレー 富士山 世界遺産」。日本政策投資銀行顧問の大川澄人氏が基調講演し、富士出身の写真家外山ひとみ、静岡県理事兼健康福祉部技監土居弘幸ら4氏がパネリストを務めた。

◆19年3月29日

幹事・運営委員と東部選出県議団・市長町長連絡会議との合同会議

(東部総局サンフロント)

19年度活動方針案を報告し、市長町長連絡会議の役員を再選した。時事通信の加藤清隆静岡総局長が「都知事選の行方と参院選の展望」と題して記念講演した。

「健康増進・疾病克服」と「県民の経済基盤の確立」を目指すファルマバレープロジェクト。県立静岡がんセンターの開院を契機に始まったプロジェクトも5年が経ち、この度、第2次戦略計画が策定されました。



■ 第1次戦略に高い評価、一方で課題も

第2次戦略計画策定に先立ち、県は、プロジェクト開始から5年間の取り組み（第1次戦略計画）を客観的に評価する評価委員会（廣部雅昭会長・県学術教育政策顧問）を立ち上げました。

● 第1次戦略計画

- 戦略1 研究開発と医療の質の向上
- 戦略2 新産業の創出と地域企業の活性化
- 戦略3 ウェルネスの視点でのまちづくり
- 支援戦略 人材育成

委員会は、先端医療の実践や創業探索の推進、産学官と民間企業による新たなネットワークの形成、かかりつけ湯や認知動作型トレーニングマシンへの取り組みを高く評価。一方、新産業の創出と地域企業の活性化や、プロジェクトを支える人材育成に重点的かつ具体的に取り組むことが必要とのコメントを発表しました。



■石川嘉延知事に評価報告書を手渡す廣部会長

第1次戦略計画の主な成果

高い研究成果が認められ、国のプロジェクトに採択されました。

- (独)医療基盤研究所
「保健医療分野における基礎研究推進事業」
創業研究プロジェクト
- 経済産業省
「バイオベンチャーの育成プロジェクト」
しずおか富士山麓ファルマバレーバイオネットワーク
- 文部科学省
「都市エリア産学官連携促進事業」
富士山麓エリア

また、静岡県版電子カルテシステムは、その有用性が認められ、国が全国版に改修し普及を図っていきます。

■ キーワードは「産業化」「人材育成」「市町との協働」

評価を踏まえ、第2次戦略計画では引き続き高度な研究開発や創薬探索に力を入れるとともに、新産業の創出や地域経済の活性化については、新たにファルマバレーセンターに産業化コーディネーターを設

置するなど、具体的な支援策を盛り込みました。また、高度な産業の集積を支える人材を輩出する仕組みを地域に構築。さらに、ウエルネスや健康をキーワードにしたまちづくりを市町との協働で進めます。

戦略1 — 患者・県民の視点に立った研究開発

県民、患者や家族及び臨床現場におけるニーズの実現を志向した研究開発を推進し、先進的医療の実践と診療支援、患者・家族支援を行うとともにベッドサイドクラスターの形成を牽引します。

戦略2 — 新産業の創出と地域企業の活性化

研究開発の成果や県民、患者・家族などからの様々なニーズをもとに、新事業・新産業の創出を推進し、地域経済の活性化につなげます。

戦略3 — プロジェクトを担う人材育成

高校、大学などの教育機関のほか病院、研究機関、企業、行政、産業支援機関、NPOなどと連携して、医療・健康分野における先端的技术開発を担う人材や高度な医療人材の育成を図るとともに、新たな産業の担い手となるひとづくりに取り組みます。

戦略4 — 市町との協働によるまちづくり

観光、健康、食、都市機能の観点から、住む人も訪れる人も元気になるまちづくりを地域とともに推進します。

戦略5 — 世界に向けた展開

世界レベルの人材や企業、情報等を地域に呼び込み、広く海外との人的交流やネットワークの形成を進め、特色ある地域の発展と世界への貢献を目指します。



第2次戦略計画の新たな取り組み

文部科学省 「都市エリア産学官連携 促進事業（発展型）」

国立遺伝学研究所、静岡がんセンターを中核として、がんの早期発見、診断のための腫瘍マーカー、バイオマーカーの探索と診断機器、診断薬などの開発、製品化を進める研究委託事業。期限は3年。年間2億円が投入され、研究だけでなく、科学技術コーディネーターの増員など製品化に向けたシステムも充実する。

「グローバル治験 （国際共同治験）」

新薬の治験を日米欧、世界同時に実施する「グローバル治験（国際共同治験）」についての対応も県内主要病院を結ぶ静岡県治験ネットワークの充実・強化により進めていく。

※COEはCenter Of Excellenceの略。最先端の研究施設、世界に誇る頭脳を集めた中核的研究拠点

「ファルマバレーCOE （※）」

特色ある研究開発拠点の形成を目指す「ファルマバレーCOE」。国立遺伝学研究所、がんセンター、県立大学など地域の研究機関や大学が一つのグループとなり、国や企業の競争的の外部資金の受け皿を作る。通常COEは大学ごとに作られるが、ファルマバレーCOEは地域がその機能を持つ。全国に先駆けた取り組み。

■ 「健康」をキーワードにしたまちづくりが始まる

平成20年度から健保や自治体などの医療保険者は、健康増進計画の提出、40歳以上の被保険者・被扶養者を対象に特定健診実施、健診後の保健指導が義務化されることになりました。今後、「健康」をまちづくりの中心に据える自治体は増えていくでしょう。

プロジェクト第2次戦略計画では、戦略4に市町との協働を位置付けています。一部の市町ではすでにプロジェクトと歩調を合わせたまちづくりに着手。徐々に成果を上げています。

「食」によるまちづくり

● 富士宮市 フードバレー事業

富士山を背景として栄えてきた富士宮市は、たぐいまれな自然環境と湧水に育まれた豊富な食材を生かし、「フードバレー事業」を推進、地域食材のブランド化、食と農の人材育成に力を注ぎ、食のまちとしての環境を整えています。



■生き生きと育つ野菜

● 伊豆の国市 安全、安心、健康のまちづくり構想

食を中心に、農業・観光・環境・健康の4つの軸からなるまちづくりを展開しています。安全で安心な食材を市内で生産し、市民だけでなく観光客へも提供し、地産地消を進めます。また、一般家庭や宿泊施設等から食品残さを回収し、堆肥化。資源の還元を進めます。



■推進協設立総会

科学的手法によるまちづくり

● 裾野市 中高年筋力向上トレーニング教室

裾野市は、歩行に重要な筋肉である大腰筋を効率的に鍛える大腰筋トレーニングマシンを取り入れた中高年のためのトレーニング教室を前後期の2度に分けて開催。中高年の体力の維持、向上と日常生活の自立を目指しています。



■トレーニングの舞台となる裾野市福祉保健センター



■伊東市の「健能健身教室」

● 伊東市 健能健身教室

伊東市では、東京大学、静岡県と協働して、豊かに湧き出る温泉と大腰筋トレーニングマシンを活用した健康増進プログラムを構築。肩凝り、腰痛、ストレスなどを解消し、楽しみながらトレーニングができる環境を整備しています。市民の健康増進に役立つとともに、新たな観光シーズとしての開発も進め、伊東発の新しい滞在型の観光資源に育てる取り組みです。

● 大腰筋トレーニングマシンのさらなる展開

大腰筋トレーニングマシンは、東部だけでなく磐田市、袋井市でも導入が決まっています。また、千葉県柏市では、経済産業省などのモデル事業としてマシンを活用した「3世代ユニバーサル十坪ジム」を実施。現在は、有料サービス事業として市内8ヶ所に設置され、健康づくりとともに地域コミュニ

ティのセンター機能も担っています。静岡県総合健康センターでは、中高年の体力向上、青少年の運動能力向上のほか、高齢者の介護予防などの視点も含め、大腰筋トレーニングマシンとその活用法を展開。知的障害者の日常生活動作の改善など、新たな分野にも挑戦します。



■経済産業省モデル事業ポスター



■ かかりつけ湯55施設に—2年目の挑戦

良質な温泉とおもてなしで、健康増進と癒しを提供する伊豆の温泉宿のネットワーク「かかりつけ湯」。協議会設立2年目を迎え、昨年春には2次募集を開始、新たに22の宿が加わり55施設となりました。

協議会は、「健康プログラム」「健康食」「地域・連携」の3つの部会を中心に伊豆地域の関係者と連携し、温泉マイスターの活用やかかりつけ湯の魅力を伊豆ブランドとして国内外に情報発信するためのさまざまな取り組みを行っています。

また、2月には、貸切バスによる伊豆八十八カ所札所巡りとかかりつけ湯での宿泊、入浴プログラムを組み合わせた1泊2日のモデルツアーを行いました。中高年女性を中心に、県内から24人が参加。札所だけでなく、下賀茂の桜見物、伊豆の幸をふんだんに使った創作弁当などを楽しみました。かかりつけ湯では、入浴前後に効果的なストレッチ法などをインストラクターが指導。地域のさまざまな魅力を組み合わせたツアーに、参加者は満足した様子でした。



■ かかりつけ湯パンフレットと新たに加わった宿



■ 法話や寺の由来を熱心に聞く参加者



■ 入浴前には効果的なストレッチを学ぶ

■ 医療系産業集積始まる

静岡がんセンターの北側に長泉町が整備した「ファルマバレー工業団地」。第1号の進出企業は、オリンパスの血液自動分析機部門と、テルモとの合弁企業であるオリンパステルモバイオマテリアルの骨補てん剤製造部門。研究、製造、カスタマーサポートを担当する社員約350人が通勤しています。オリンパスでは隣接する静岡がんセンターとの共同研究や、新たに進出する民間企業などと連携した事業の展開を図る予定です。



■ 進出第1号
オリンパス

また、技能五輪国際大会が開催される沼津市門池でも産業集積が期待されています。大会終了後の建物には、医療機器製造の秋山機器と日幸製作所の入居が決まっており、同じく新設された県立沼津技術専門校や、近隣の沼津高専、沼津工業技術センターなどと連携した人材育成にも取り組みます。



■ 大会終了後、県立沼津技術専門校となる建物



富士山静岡空港の開港を2年後に控え、富士山が世界遺産候補として暫定登録されるなど、世界的な交流時代の幕開けを予感させる静岡県。昨年12月には、観光立国推進基本法が制定され、観光が21世紀における日本の重要な政策の柱として明確に位置付けられました。

■ 観光を国の基幹産業に位置付け

法律では、「観光」を「国際平和と国民生活の安定を象徴するもの」と位置付けています。それに向けた施策の基本理念として、①「地域が創意工夫しながら、住民が誇りと愛着を持てる活力ある地域社会の持続可能な発展をすることで、国内外からの観光旅行を促進すること」②「国民の観光旅行の促進」③「国際的視点に立った施策の実施」④「観光産業を通じた多様な就業機会の創出を、官民連携のもと進めていく」としています。

今後、国は、基本的施策として、国際競争力の高い魅力ある観光地の形成、観光産業の国際競争力の強化及び観光の振興に寄与する人材の育成、国際観光の振興、観光旅行の促進のための環境の整備に必要な施策を進めます(図)。また、法の趣旨を踏まえて、地域の魅力ある観光地づくりの取り組みに対する支援や、ビジット・ジャパン・キャンペーンの強化など、観光立国の実現に関する施策を、関係省庁が連携して推進する予定です。



■観光立国推進基本法の概要

■ 大交流時代の幕開け

静岡県では、平成21年3月、富士山静岡空港が開港します。快適な暮らしや元気な産業を支える「交流の基盤」として、国内各地や世界の国・地域に短時間でアクセスできる「富士山静岡空港」は、県の新たな戦力となることでしょう。

今年1月、文化庁文化審議会文化財分科会は、昨年11月に静岡・山梨両県と関係市町村が提案した「富士山」を、世界文化遺産の暫定リスト追加遺産候補として決定しました。

今後、6月に開催予定のユネスコ世界遺産委員会で、富士山の暫定リスト追加が正式に決定する見込みです。

● 富士山静岡空港が開港

静岡空港の位置 静岡県牧之原市・島田市
管理面積 約190ha
(緩衝緑地帯等の周辺部を含む
全体面積は約500ha)
滑走路 長さ2,500m



■ 海外就航予定先

ソウル 北京 上海 台北 香港 バンコク
シンガポール グアム・サイパン ホノルル

■ 国内就航予定先

新千歳 福岡 鹿児島 那覇 ほか

● 富士山が世界遺産登録

【キャッチフレーズ】

「富士山の心を、日本へ、世界へ。」

【世界遺産ロゴマーク】



富士山を
世界文化遺産に

■ 急がれる東部の観光ビジョンづくり

法律制定を受け、国は国の、地域は地域の観光面での目標づくりが急がれます。人口3000万人の首都圏をかかえ、富士山静岡空港が開港するなど、東部地域は恵まれ

た環境にあります。この優位性を生かした産業活性化の方策に地域が力を合わせて取り組む時期でしょう。

● 東部・伊豆観光活性化の5つの視点

1. 健康と癒しをテーマにした、他の地域と差別化されたサービスの提供
2. 国内ターゲットは団塊世代
3. 発展著しいアジアの人々向けの空港の活用
4. 首都圏との一体性を重視した誘客戦略の構築
5. 地域の宝の掘り起こし



■地域の伝統文化を見直し、中高年向けの高品質なサービスの提供が求められる

■ 東部観光コンベンションビューロー設立の動き

「コンベンション」とは「人が非日常的に共通の目的をもって一定の場所に集うこと」を意味する単語。学会や業界、組合などの関係者が一堂に会する国内大会・国際大会をはじめ、行政、企業が行う研修会・セミナー、シンポジウム、また見本市や展示会、各種イベントなどの総称です。

宿泊、飲食、みやげ物購入などを伴うことで観光関連産業を活性化し、アフターコンベンションでの周辺観光による直接的効果も見込めることから、交流人口を生み出す新たな分野として観光との相互補完が期待されています。

コンベンションビューローは、主に (1) 主催団体に対する誘致 (2) コンベンション開催に対する各種支援 (会場や関連業者の紹介・あっせん、開催準備資金の貸し付け、パンフレット・グッズの提供、アトラクション、エクスカージョンの紹介、機材の貸し出しなど) ーを行っています。

東部は、国立遺伝学研究所、静岡がんセンターなどの国際的研究機関、大手企業の研究所、開発部門などが集積しています。首都圏からも近く、宿泊施設もそろっていることから、コンベンションを開催するにはうってつけの地域。富士山、温泉、海といった豊富な自然に恵まれ、観光にも結び付けやすい立地です。



■東部では様々な学会が開催されている



■東部にぎわいの拠点 キラメッセぬまづ



■東部唯一の国際会議場 東レ総合研修センター

すでに県中部、西部ではコンベンションの誘致や開催の支援を専門に行う「コンベンションビューロー」が設立され、年間300を超えるコンベンションを受け入れています。東部でも県が呼びかけ、昨年5月「東部地域コンベンションビューロー研究会」が立ち上がりました。事務局を沼津市に、三島・富士・富士宮・裾野・御殿場・伊豆・伊豆の国市、小山・長泉・清水・函南・芝川の8市5町が参加、コンベンション開催が地域にもたらす効果や、会場、宿泊施設、交通機関といったコンベンション開催に求められる環境整備などの研究を行っています。

3月には研究会を設立準備会に格上げし、今秋ごろの設立に向けた合意形成を図っています。

コンベンション開催による経済波及効果の一例

- 経済波及効果 (A+B) 3億1,822万円
 - (A) 直接的経済効果 1億1,686万円
 - 参加者 8,200万円
 - 主催者 3,486万円
 - (B) 間接的経済効果 2億135万円

- その他間接的経済効果
 - 所得形成効果 6,297万円
 - 税収増大効果 833万円

大会概要

【第54回全国ろうあ者大会】

会期 2006年6月7日～11日(5日間)
 会場 グランシップ(静岡県コンベンションアーツセンター)ほか
 参加者数 3,028人 平均宿泊日数 1.54泊
 宿泊者一人平均消費額:31,764円
 (内訳:宿泊費11,314円、土産代5,657円、交通費4,345円、食事代4,505円 ほか)

(静岡コンベンションビューロー調べ)

東部では大型イベントがめじろ押し

● F1グランプリ

世界最高峰のカーレースF1グランプリ。今年9月、小山町の富士スピードウェイで実に30年ぶりに開催されます。大会3日間で28万人が訪れ、世界170カ国に放映されるビッグイベントです。世界中から多くの人々が詰め掛け、経済波及効果が大きい一方、周辺道路の渋滞懸念も。第二東名とそれにつながる国道138号の4車線化が望まれています。



■新しく生まれ変わった富士スピードウェイ

● 技能五輪国際大会

11月に沼津市で行われる技能五輪国際大会は、22歳以下の若者の技の祭典。日本では東京、大阪に次いで3カ所目、地方都市では初となる国際的な大会です。今大会は、障害者の技能を競う「アビリンピック」（静岡市）と史上初めて同時開催。「2007ユニバーサル技能五輪国際大会」として、世界の匠の技が目目の当たりにできるまたとない機会です。



■技能五輪国際大会を盛り上げようと、民産学官が結集

地域の魅力を掘り起こす取り組みが次々と

フィルムコミッション

フィルムコミッションは、映画、テレビドラマ、CMなどのロケーション撮影を誘致し、実際のロケをスムーズに進めるための組織。映像を通じた観光振興が図れることから、国土交通省の呼びかけで平成12年ごろから全国に広まりました。



■日本の原風景が多く残る伊豆は古くからのロケーションのメッカ



■伊豆八十八カ所と連携したかかりつけ湯モデルツアーの一コマ

かかりつけ湯

健康増進と癒しのための伊豆温泉宿ネットワーク「かかりつけ湯」は昨年春、2次募集を行い、厳正な審査により参加数は55施設に増えました。県伊豆ブランド創生事業にもエントリー。江戸時代に活発化し、一時途絶えた伊豆八十八カ所札所めぐりのバスツアーと連携したモデルツアーを行い、好評を博しました。

創造祭発のイベント

修善寺「桂座」、伊豆の国市「薪能」は、2000年の伊豆新世紀創造祭を契機に始まった新しいイベント。住民を巻き込みながら、“地域の文化”へと変貌を遂げています。住民の熱意の大きさと次代への継承がうまくいった事例です。

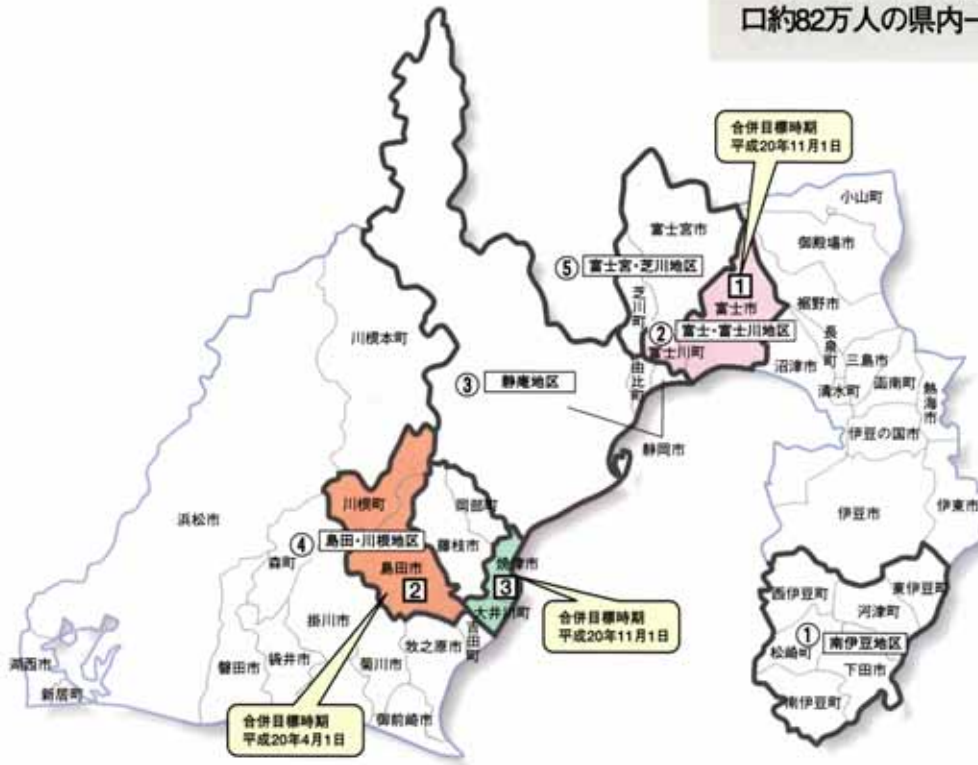


■地域の文化を子どもたちに伝える狩野川薪能

県内市町合併の状況

平成19年4月2日現在

42市町のうち6市町が法定協議会に参加



記憶に新しい北海道・夕張市の財政再建団体への転落。一步舵取りを間違えると自治体でも倒産する時代がやってきたことを表す象徴的な出来事でした。一方、今年4月、浜松市は政令指定都市として、人口約82万人の県内一規模の大きな都市となりました。

市町村合併推進構想に位置付けられた市町の組合せ

<人口1万5千未満の町を含む地区>

地区	関係市町	人口規模
南伊豆地区	下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町	78,504人
富士宮・芝川地区	富士宮市、芝川町	131,476人
静庵地区	静岡市、由比町	723,323人
鳥田・川根地区	鳥田市、川根町	102,108人

<生活圏が一体化している地区>

地区	関係市町	人口規模
富士・富士川地区	富士市、富士川町	253,297人

法定協議会が設置されている地区

No.	協議会名	関係市町	人口規模
1	富士市・富士川町合併協議会 (平成18年11月20日設置)	富士市・富士川町 【富士市】	78,504人
	合併目標年月日:平成20年11月1日		131,476人
2	鳥田市・川根町合併協議会 (平成18年12月15日設置)	鳥田市・川根町 【鳥田市】	78,504人
	合併目標年月日:平成20年4月1日		131,476人
3	焼津市及び大井川町合併協議会 (平成19年4月2日設置)	焼津市、大井川町 【未定】	78,504人
	合併目標年月日:未定		131,476人

※は、市町村合併推進構想に位置付けられた市町の組合せと一致した組合せ
※人口規模は、平成17年10月1日現在の国勢調査人口による

■ 県内の合併状況

42市町のうち、6市町が法定協議会に参加しています。現在協議中の組み合わせで合併した場合、平成22年3月までに39市町(23市16町)となる見込みです。

県の市町村合併推進構想に位置づけられた市町の組み合わせは、人口15,000人未満の町を含む地区では、①南伊豆地区(下田、東伊豆、河津、南伊豆、松崎、西伊

豆)、②富士宮・芝川地区(富士宮、芝川)、③静庵地区(静岡、由比)、④鳥田・川根地区(鳥田、川根)。生活圏が一体化している地区では、⑤富士・富士川地区(富士、富士川)となっています。そのうち、法定協議会が設置されているのは、④と⑤の組み合わせです。また、焼津市、大井川町も協議会を立ち上げました。

● 市町村合併推進構想第2次答申

10月

昨年10月の市町村合併推進審議会(会長:大坪檀静岡産業大学学長)の第2次答申では、「生活圏が一体化している地区」として、中遠地区(磐田、袋井、森)のうち、袋井市と森町を合併推進構想の対象とすべきとしています。また、「中核市を目指した合併を検討する必要がある地区」として、東部地区(沼津、三島、裾野、函南、清水、長泉)の3市3町を同じく構想の対象としました。

● 市町村合併推進構想第3次答申

4月

4月の第3次答申では、御殿場市と小山町、焼津市と大井川町、藤枝市と岡部町、湖西市と新居町の各1市1町の枠組みが提示されました。御殿場市と小山町は「北駿地区として生活圏が一体化」、湖西市と新居町は「特色ある地域文化と産業を共有」が理由に挙げられています。また、志太地域については、「1つのステップであり、周辺地域を含めた2市2町以上の合併を目指し、計画的に取り組むことを期待する」と付記されました。

■ 東部、政令市への道のり

静岡市に続き、浜松市が政令市となる中、東部地区では5市4町（沼津、三島、裾野、御殿場、伊豆の国、函南、清水、長泉、小山）の首長と議長でつくる東部広域都市づくり研究会（会長：斎藤衛沼津市長）の動向が注目さ

れています。

1月末の会合では、「25年までに政令市を目指す」との合意事項や実現までのプロセスに、市町間で温度差があることが浮き彫りになりました。



**県市町村合併推進審議会
大坪禮会長**

「長期的な視点を持った
リーダーが不可欠」

次の時代、日本は大きく変わります。東京一極集中が終わり、地方の時代が来る。そのときの政治形態は道州制、あるいは別の新しい枠組みでしょう。その中でこの地域がどう発展していけるのか。それには、合併を目先の損得で考えるのではなく、東部の発展性や魅力をまとめ上げ、そこに住む人々の生活を豊かにするための戦略を長期的な視点に立て考えられるリーダーの存在が不可欠です。

そのほか東部では、法定合併協議会を設立した富士市、富士川町、反対に不成立となった富士宮市、芝川町（富士宮市議会が否決）をはじめ、早ければ本年度にも赤字団体が出るという切羽詰った状態にある伊豆南部地区（下田、東伊豆、河津、南伊豆、松崎、西伊豆）で

も、南伊豆地区合併調査委員会を立ち上げるなど、合併を巡る動きが徐々に始まっています。

懇話会でも地域の情勢をにらみつつ、引き続き合併推進を支援していきます。

ラジオEAST 「You ゆ〜サタデー」

www.digisbs.com/east/

SBSラジオ 毎週土曜日
11:00~12:55

静岡県東部・伊豆地方の地域密着型情報ワイド「You ゆ〜サタデー」。観光、温泉、グルメ、ドライブスポットなどの情報を毎週サンフロントから発信しています。

すっかり地元の方に親しまれている公開放送も、本年度は13回を数えました。

東部、伊豆の旬の話題を取り上げる「アラウンド・ザ・イースト」では、地元産の食材を多数紹介。虹鱒バーガーや韭山産のイチゴ「べにほっぺ」を使用したスイーツなど、新感覚のアレンジに舌鼓を打ちました。

また、しっくいを使った泥だんご（松崎町）や、手作りのみしま風鈴（三島市）といった体験レポートも盛りだくさんお送りしました。

12月には東部を飛び出し、静岡市青葉公園で初めての「ファン感謝デー」を開催。たくさんのリスナーにお会いすることができました。

これからも番組ファンのために、You ゆ〜サタデーは楽しい情報をお送りしていきます。



■ ラジオEASTホームページ

番組ホームページでは、番組で取り上げた話題を写真とテキストで紹介しています。「アラウンド・ザ・イースト」をはじめ「温泉へ行こう!」「花ごよみ」各コーナーはバックナンバーも充実。東部、伊豆にお出かけの際はぜひご利用下さい。

URL <http://www.digisbs.com/east/>



新聞特集記事「風は東から」

www.sunfront21.org/

静岡新聞東部版・朝刊

毎月 第4日曜日掲載

毎月1回、東部地域活性化の取り組みを特集する「風は東から」。9年目を迎えた今年は、地域に交流人口を生み出すさまざまな活動を取り上げました。

観光振興の新たな芽として、江戸時代には盛んに行われていた伊豆八十八か所めぐりを復興させる動きや、映像を通じた地域PR・フィルムコミッション、活動2年目を迎えたかかりつけ湯の今後の展開を紹介。また、ファルマバレープロジェクトが進む東部で増える各種学会など、コンベンションを受け入れるビューロー整

備にスポットを当てました。

開催まで1年を控えた技能五輪国際大会は、3度にわたり特集。大会が地域にもたらすものや、跡地への医療系産業集積に向けた関係者の思いを取り上げました。年3回の各地区分科会も積極的に情報発信。賀茂地区合併や、技能五輪、富士山世界遺産とファルマバレープロジェクトが目指す癒しの地域づくりについて、識者を招いたパネルディスカッションの内容をお伝えしました。



■ サンフロント21 懇話会ホームページ

懇話会活動がひと目で分かるホームページ。懇話会の設立趣旨・沿革をはじめ、新聞「風は東から」のバックナンバーや、1年間の活動をまとめた冊子「飛躍」などが閲覧できます。

URL <http://www.sunfront21.org/>

□ ファルマバレープロジェクトの推進支援



静岡県が進めるファルマバレー(富士山麓先端健康産業集積)プロジェクトは、18年度で5年目を迎え、中心となる静岡がんセンター、創業探索、治験ネットワーク、医看工連携拠点のがんセンター研究所が

順調に稼働している。懇話会は、健康関連事業の有効性を認識し、2次戦略の発表を受けて引き続きプロジェクトの推進を全面的に支援していく。研究開発、健康関連産業の創出とは別に、「かかりつけ湯」や科学的手法によるトレーニングシステム導入などのウェルネス分野、従来からの文化・芸術、景観と新たに創造する文化・芸術がもたらす“癒し”効果もプロジェクト推進に必要であるとの視点から研究し、特に、景観の癒しの中で真っ先に挙げられる富士山について、世界文化遺産登録運動ともリンクしながら議論を進める。また、農と食、環境、観光を組み合わせた伊豆の国市の健康増進事業、富士宮地域のフードバレー事業についても、“食と健康”“食と環境”の観点から推進に協力していく。

□ 技能五輪国際大会の推進支援と大会後の跡地利用について

平成19年11月、沼津市門池地区で開催される技能五輪国際大会(国際アビリンピック・国際障害者技能競技大会と同時実施)を終了まで支援していく。競技会場の跡地利用について、懇話会は、デンマークとスウェーデンのサイエンスパーク視察後にまとめ、県、沼津市に提言した「ぬまづウェルネス・リサーチパーク構想」の議論を深め、さらにファルマバレープロジェクトとも連動する跡地の有効利用を検討していく。また、ファルマバレープロジェクトに関連する地域として跡地の門池地区から静岡がんセンター周辺までの基盤整備についても可能かどうか研究を重ねていく。



□ 広域行政の推進を支援

東部地域では、2004年4月の「伊豆市」に続き、2005年4月に「伊豆の国市」、新「西伊豆町」、新「沼津市」が誕生した。東部地域は、市町の思惑の違いから合併の足並みがなかなかそろわないと指摘されてきたが、富士市と富士川町が法定合併協を設置し、平成20年11月の合併に向けスタートを切った。行方が注目された芝川町は、富士宮市議会が合併協設置案を否決したものの、富士宮市との合併を依然模索

している。県が支援金交付制度を創設したことを受け、最も合併が必要でありながら遅れている伊豆南部の下田・賀茂地区の合併についても地元で議論されるなど、合併第2弾に向けた動きが加速しつつある。懇話会としては、こうした情勢を踏まえ、なぜ合併が必要なのかという原点に帰り、足腰の強い地域づくりについて論議を深めていく。

□ 富士山・伊豆地域の観光の振興

政府は昨年、57カ月続いた戦後最長の「いざなぎ景気」を超え、緩やかに景気拡大局面が続いていると、発表した。しかし、消費拡大の実感は薄く、観光産業が多い「伊豆」のにぎわいが本格化するのには、まだまだ先のこと。国内外の有力観光地、テーマパークなどとの地域間、施設間の競争が激化する中で、富士山静岡空港の開港をにらみ、世界文化遺産登録の暫定リストに入った富士山と伊豆の温泉、景観を組み合わせた周遊観光に光を当てた観光戦略を打ち

出していかなければならない。伊豆ナンバー創設でみせた「伊豆は一つ」の結束力を、富士山を取り入れた観光にどのように生かしていくか、また来秋に実現する「富士山ナンバー」をきっかけに新たな町づくりができないか、議論を詰めていく必要がある。懇話会は、前年度に引き続き、有料道路の活用、空港開港をにらんだ通勤圏空港の実現性について議論し、東部全体のにぎわいを取り戻す方策を考えていきたい。



● 会員名簿

氏名	会社名	役職	氏名	会社名	役職
相原 郁子	(有)新井旅館	代表取締役	植草慎一郎	(株)康報社 植草新聞店	代表取締役社長
青 昭則	(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ東海	取締役静岡支店長	上野 英房	(株)伊豆新聞本社	代表取締役社長
青木喜代司	青木興業(株)	代表取締役	植松 勝一	植松勝一税理士事務所	税理士
赤尾 信幸	熱海市観光協会	会長	植松 眞	(株)トーヨーアサノ	代表取締役
赤塚 敏治	(株)西武百貨店沼津店	店長	植松三哉子	(株)植松	代表取締役社長
赤堀 肇紀	赤武エンジニアリング(株)	代表取締役社長	臼井 良太	白幸産業(株)	代表取締役
秋鹿 博	(有)アート・ビューロー	代表取締役社長	内田 豪	(株)ダイナナ	代表取締役社長
秋山 勇雄	静岡新聞社・静岡放送	取締役営業局長	内田 隆久	伊豆洋らんパーク	代表取締役
秋山 佳彦	(株)秋山機器	代表取締役	内田 文喬	内田法律事務所	弁護士
綾部 恵市	(株)綾部商店	代表取締役社長	内田 正章	富士通(株)沼津工場	工場長
荒波 務	静岡県富士財務事務所	所長	内村 紳	東海自動車(株)	取締役社長
飯田 悦郎	飯田工業薬品(株)	代表取締役	内山 一美	マックスバリュ東海(株)	代表取締役社長
飯田 陽道	静岡県東部健康福祉センター	所長	宇野 統彦	(株)桃中軒	社長
伊海 剛志	(株)イカイ	代表取締役社長	梅田 豊	静岡県沼津土木事務所	所長
五十嵐公夫	(株)五十嵐水産	代表取締役	遠藤 里美	日本ガス興業(株)	代表取締役会長
井口 修一	(株)フジスポーツ	代表取締役社長	遠藤 忠男	(有)遠藤新聞舗	代表取締役
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	所長	遠藤 隆良	静岡県東部農林事務所	所長
池田 誠	池田病院	院長	大石 一男	静岡県工業技術研究所沼津工業技術支援センター	センター長
池田 泰秀	静岡新聞社・静岡放送	取締役事業局長	大石 滋	静岡新聞社	代表取締役専務
池谷 之利	アイバックスイケタニ(株)	代表取締役社長	大石日出男	静岡県総合健康センター	所長
池谷 喜幸	(株)池谷商会	代表取締役	大川 禮二	伊東観光協会	会長
石井 大介	(株)富陽軒	代表取締役	大古田和彦	山本被服(株)	取締役社長
石井 誠	(株)石井組	専務取締役	大塩 孝雄	黄瀬川自動車学校	取締役会長
石川 三義	社会福祉法人 春風会	理事長	太田 貴久	(株)ブレーン	代表取締役
石川 喜介	(株)ブケ東海	代表取締役社長	大野 数芳	(株)大野商店	代表取締役
石川 智祐	(株)ジャパンビレッジ沼津営業所	所長	大村 俊之	三島信用金庫	理事長
石川雄一郎	石川建材工業(株)	代表取締役社長	大村 恵紀	大村歯科医院	院長
石田 健二	(株)CFSコーポレーション	代表取締役兼社長	大山 邦雄	沼津市立病院	病院長
石野 寿雄	静岡新聞社・静岡放送	東部総局部長	小笠原一夫	宇徳通運(株)	代表取締役社長
石山 隆治	静岡放送	常務取締役	尾形 充生	(株)静岡中央銀行	会長
磯部 明	磯部建設(株)	代表取締役	岡野 光喜	スルガ銀行(株)	社長
稲垣 潤	(株)JTB中部 沼津支店	支店長	小川 忠晴	東京電力(株)沼津支店	執行役員沼津支店長
稲葉早智子	アロマポット	代表取締役	刑部 治	(有)啓伸社 刑部新聞店	代表取締役
乾 精治	スルガ銀行(株)	専務取締役	小野 親一	数行行政法人都市再生機構 静岡建設定額貸付事務所	所長
井上 謙吾	(株)しずおか産業製造機材ファルマバレーセンター	所長	小野 徹	小野建設(株)	代表取締役
井上 光一	静岡県中小企業団体中央会	会長	鹿川 紘一	大東紡エステート(株)	取締役社長
井上 太	(株)北里サプライ	代表取締役社長	垣東 秀夫	沼津情報専門学校	校長
岩瀬 広徳	(株)日本製紙富士工場	常務取締役工場長	賀来 裕之	積水ハウス(株)沼津支店	支店長
岩田 均	静岡放送	ラジオ局長	片山 劫	伊豆総合産業(株)	代表取締役社長

氏名	会社名	役職
勝亦 一強	沼津魚市場(株)	代表取締役社長
勝又 高雄	日本電気(株)沼津支店	支店長
勝又 敏雄	(株)カジマヤ	代表取締役社長
勝又 規雄	ライオンファイル(株)	代表取締役社長
勝間田久嗣	二葉建設(株)	代表取締役社長
勝又 英男	(株)勝又新聞店	代表取締役
勝又 泰治	(株)沼広	代表取締役
勝間田芳彦	(学)東職学園 御殿場西高等学校	理事長
桂 英治	静岡放送	報道制作局長
加藤 孝彦	(株)コーゲツ	代表取締役
加藤 博彦	(株)メディアクリエイト	代表取締役
加藤 昌利	(株)ホテル銀水荘	代表取締役社長
加藤瑠美子	学校法人 加藤学園	副理事長
金指 光義	(株)稲取観光ホテル	代表取締役
川井 国光	(株)静岡銀行沼津支店	執行役員沼津支店長
川崎 幸雄	沼津魚仲買商協同組合	理事長
河津 市元	河津建設(株)	代表取締役社長
川村 博一	(有)川村マンション	社長
河原崎信幸	シンコーラミ工業(株)	代表取締役
菊地 昌久	静岡県賀茂農林事務所	所長
北岡 貴人	(株)暖香園	代表取締役社長
北村 敏廣	静岡新聞社・静岡放送	取締役社長室長
木村美都子	木村美都子税理士事務所	税理士
国重 裕三	日本興亜損害保険(株)静岡支店沼津支社	支社長
久保田利昭	(財)静岡総合研究機構	専務理事
久保田正海	クボタコンサルタント事務所	代表
黒崎 昇	三栄レギュレーター(株)	社長
小泉 早人	静岡ガス(株)沼津支店	支店長
後藤 全弘	(株)ゴトー	会長
後藤 行宏	(株)ゴトー	代表取締役社長
小西 隆司	(株)関電工静岡支店	支店長
小林 克也	小林電気工業(株)	代表取締役
小林 省吾	(株)小林製作所	代表取締役会長
小林 俊夫	(株)東報	代表取締役
小林 政則	スルガコンピューターサービス(株)	代表取締役社長
小見山 岳	米久(株)	相談役
近藤 隆明	富士通(株)静岡東部支店	支店長
近藤 安敞	近藤鋼材(株)	代表取締役会長
近藤 良夫	近藤良夫会計事務所	所長

氏名	会社名	役職
齊藤 克弥	カネシマ・オペレーション沼津 沼津聴覚センター	総支配人
齊藤 大	伊東ガス(株)	代表取締役社長
齊藤 民夫	賀茂地域支援局	局長
齋藤 利一	三幸興業(株)	代表取締役社長
齋藤 稔	(株)齊藤組	代表取締役社長
齊藤 洋	沼津三菱自動車販売(株)	代表取締役社長
佐伯 隆彰	(有)佐伯新聞店	代表取締役
佐々木 純	(株)損保ジャパン静岡支店 沼津支社	支社長
佐々木道武	大成サービス(株)浜松営業所	浜松営業所長
定居 康夫	(株)喜久多	代表取締役
薩川 和己	静岡県熱海土木事務所	所長
佐藤三武朗	日本大学国際関係学部	学部長
佐藤 秀樹	(株)リネックスサトウ	代表取締役
佐藤 宗徳	(株)佐藤建設	取締役 経理部長
佐藤 安男	近畿日本ツーリスト 沼津支店	支店長
佐野 正幸	(有)佐野新聞店	代表取締役
佐野 学	駿河信用金庫	理事長
澤野 幸男	スルガカード(株)	代表取締役専務
篠原 光秋	(株)エスピーエス情報システム	代表取締役社長
庄司 睦	南駿農業協同組合	代表理事組合長
杉田 至弘	静岡新聞社・静岡放送	常務取締役
杉山 定久	南富士産業(株)	代表取締役社長
村主 一徳	住友生命保険相互会社沼津支社	支社長
須沢 隆弘	(株)東広	代表取締役
鈴木 和江	観音温泉	代表取締役社長
鈴木 一紘	静岡新聞社・静岡放送	常務取締役
鈴木 宏明	(株)鈴木新聞店	社長
鈴木 義勝	静岡県富士土木事務所	所長
須田 徳男	三島商工会議所	会頭
諏訪部恭一	沼津信用金庫	理事長
諏訪部照久	(株)スワベ商会	代表取締役社長
諏訪部敏之	丸善工業(株)	代表取締役社長
清 哲也	(株)大石組	代表取締役社長
関塚 正和	静岡県沼津財務事務所	所長
関本 文彦	東海金属工業(株)	代表取締役社長
高木 一三	高木産業(株)	代表取締役会長
高木 信	(株)テクノスジャパン	代表取締役
高田 菊平	ニューデルタ工業(株)	代表取締役社長
高田 誠	(株)加藤工務店	代表取締役

● 会員名簿

氏名	会社名	役職	氏名	会社名	役職
高橋 研三	東海食糧(株)	代表取締役社長	服部巖一郎	(株)チキリ	代表取締役社長
瀧戸 博夫	静岡県熱海財務事務所	所長	羽野 久雄	羽野水産(株)	代表取締役社長
田口 誠	㈱エムオーエトラベルサービス	代表取締役社長	林 光珠	(株)甲子園	代表取締役
竹下 雅和	鹿島建設(株)静岡営業所	所長	早船 進	立花管理(株)	代表取締役
田代 武満	御殿場農業協同組合	代表理事組合長	原 浩之	学校法人 原学園	理事長
田代 寿夫	(株)田代新聞センター	代表取締役	原口 護	富士商事(株)	代表取締役
立岩 博明	立岩石材興業(株)	代表取締役	原田 誠治	静岡新聞社	常務取締役
谷川 治	静岡新聞社・静岡放送	東部総局長	一杉 真城	ヒトスギ塾	会長
千葉 慎二	(株)SK-SZKi	代表取締役社長	兵藤 真一	東方之光	広報担当
辻 明久	(有)メイク・エンタープライズ	代表取締役	日吉 公男	静岡県工業技術研究所富士工業技術支援センター	所長
土橋 幸彦	静岡新聞社	編集局長	平井 憲明	静岡県富士農林事務所	所長
土屋 順一	東海建設(株)	代表取締役	深田 徹	スルガ総合保険(株)	代表取締役社長
土屋 正	(株)伊豆フェルメンテ	代表取締役社長	福島 眞司	国土交通省中部地方整備局沼津河川国道事務所	所長
土屋 紀雄	(株)土屋建設	代表取締役	藤浪 譲治	エスピーエスメディアサービス(株)	代表取締役社長
土屋 昌樹	御殿場高原ビール(株)	代表取締役	藤野 重之	7/11カンファミリー生命保険会社東海支店沼津支社	支社長
土屋 幹夫	(株)幹洋堂土屋新聞店	代表取締役	古川 喜仁	(株)エム・エス・エス	常務取締役
土屋雄二郎	雄大(株)	代表取締役	堀内光一郎	富士急行(株)	取締役社長
土屋龍太郎	土屋建設株式会社	社長	前田 暁史	野村証券(株)沼津支店	支店長
鳥井 明典	鳥井明典法律事務所	弁護士	松井 純	静岡新聞社・静岡放送	取締役社長
永倉 聡	沼津通運倉庫(株)	代表取締役社長	松田 達也	ネットトヨタ静岡(株)	代表取締役社長
長嶋 精一	(株)静岡銀行	常務執行役員	松永 淳	静岡新聞社・静岡放送	常務取締役
中島 勉	キリンビール(株)	営業部長	松本 美代	(株)坐漁荘	取締役 女将
中島 麗子	中島水産(株)	代表取締役会長	三澤 清利	特種製紙(株)	代表取締役社長
中村 勝幸	静岡県下田財務事務所	所長	三澤 幸男	沼津商工会議所	専務理事
名倉 義明	近物レックス(株)	代表取締役社長	水野 隆徳	富士常葉大学	学長
南里 一博	日本生命保険相互会社沼津支社	支社長	峰田 武	三島市観光協会	会長
西岡 直樹	大和ハウス工業(株)沼津支店	支店長	宮川 宗敏	(株)システムクリニック	代表取締役
西島 昭男	(株)シード	代表取締役社長	宮城島安宏	静岡新聞社・静岡放送	常務取締役
西島 洋司	医療法人社団親和会 西島病院	理事長	三輪 俊城	ホテル沼津キャッスル	代表取締役
西村 嘉夫	小泉アフリカ・ライオン・サファリ(株)	常務取締役園長	村松 俊男	静岡県田子の浦港管理事務所	所長
西山幸三郎	東海大学開発工学部	学部長	室伏 勝宏	みしまプラザホテル	代表取締役
二宮 睦治	青木建設(株)	代表取締役	室伏 強	三嶋観光バス	代表取締役
野津 直己	シュアジャパン(株)	代表取締役社長	望月 照元	西日本電信電話(株)沼津支店	支店長
野村 玲三	(株)野村商店	代表取締役社長	望月 廣澄	静岡県下田土木事務所	所長
野本 方子	(株)コーリキ	社長	望月 保身	望月法律事務所	弁護士
則竹 幹隆	(株)エスピーエスプロモーション	代表取締役社長	望月 義明	(有)アスナロカン	代表取締役
萩原 孝子	静岡県賀茂健康福祉センター	所長	森 正憲	(株)安心堂沼津店	店長
萩原 聰治	下田商工会議所	会頭	森崎 祐治	静岡コンサルタント(株)	代表取締役社長
畠山 建二	(株)富士急百貨店	代表取締役	八木 和男	(株)八木繊維	代表取締役

● 会員名簿

氏名	会社名	役職	氏名	会社名	役職
＜会員の交代＞					
青 昭則	㈱エヌ・ティ・ティ・ドコモ東海	取締役静岡支店長	大山 邦雄	沼津市立病院	病院長
赤尾 信幸	熱海市観光協会	会長	小野 親一	独立行政法人都市再生機構 静岡東部特定再開発事務所	所長
荒波 務	静岡県富士財務事務所	所長	高橋 宏	小山町	町長
飯田 陽通	静岡県東部健康福祉センター	所長	斉藤 克弥	ホテル・オペレーション沼津 沼津東急ホテル	総支配人
石川 喜介	(株)ブケ東海	代表取締役社長	石川雄一郎	石川建材工業(株)	代表取締役
石川 智祐	㈱ジャパンビレッジ沼津営業所	所長	渡邊 光則	富士ロビン(株)	代表取締役社長
石田 健二	㈱CFSコーポレーション	代表取締役兼社長			
内田 正章	富士通(株)沼津工場	工場長			
梅田 豊	静岡県沼津土木事務所	所長			
大石 一男	静岡県工業技術研究所 沼津工業技術支援センター	センター長			
大川 禮二	伊東観光協会	会長			
小川 忠晴	東京電力(株)沼津支店	執行役員沼津支店長			
賀来 裕之	積水ハウス(株)沼津支店	支店長			
菊地 昌久	静岡県賀茂農林事務所	所長			
久保田利昭	(財)静岡総合研究機構	専務理事			
小西 隆司	(株)関電工静岡支店	支店長			
斉藤 栄	熱海市	市長			
佐々木 純	㈱損保ジャパン静岡支店 沼津支社	支社長			
薩川 和己	静岡県熱海土木事務所	所長			
澤野 幸男	スルガカード(株)	代表取締役専務			
村主 一徳	住友生命保険相互会社沼津支社	支社長			
大石日出男	静岡県総合健康センター	センター長			
関塚 正和	静岡県沼津財務事務所	局長			
高橋 研三	東海食糧(株)	代表取締役社長			
瀧戸 博夫	静岡県熱海財務事務所	所長			
中村 勝幸	静岡県下田財務事務所	所長			
畠山 健二	(株)富士急百貨店	代表取締役			
日吉 公男	静岡県工業技術研究所 富士工業技術支援センター	センター長			
平井 憲明	静岡県富士農林事務所	所長			
福島 眞司	国土交通省中部地方整備局沼津河川国道事務所	所長			
藤野 重之	7/7ファミリー生命保険会社東海営業本部沼津支社	支社長			
三澤 幸男	沼津商工会議所	専務理事			
村松 俊男	静岡県田子の浦港管理事務所	所長			
望月 照元	西日本電信電話(株)沼津支店	支店長			
山本 博保	清水町	町長			
若林 久	伊豆箱根鉄道(株)	取締役社長			
渡辺 登	東部地域支援局	局長			
岩瀬 広徳	(株)日本製紙富士工場	常務取締役工場長			

● 幹事・委員

サンフロント21懇話会幹事 (50音順、敬称略)

氏名	会社名	役職	住所
尾形 充生	(株)静岡中央銀行	会長	沼津市
岡野 光喜	スルガ銀行(株)	社長	沼津市
北岡 貴人	(株)暖香園	代表取締役社長	伊東市
長島 精一	(株)静岡銀行	常務執行役員	沼津市
小見山 岳	米久(株)	相談役	沼津市
諏訪部恭一	沼津信用金庫	理事長	沼津市
萩原 聰治	下田商工会議所	会頭	下田市
三澤 清利	特種製紙(株)	代表取締役社長	長泉町
峰田 武	三島市観光協会	会長	三島市
矢田部正巳	三嶋大社	宮司	三島市
山本 誠	富士商工会議所	会頭	富士市
石田 健二	㈱CFSコーポレーション	代表取締役社長	横浜市

サンフロント21懇話会運営委員 (50音順、敬称略)

氏名	会社名	役職	住所
秋鹿 博	(有)アート・ビューロー	代表取締役社長	富士宮市
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	所長	沼津市
池田 誠	池田病院	院長	長泉町
内田 隆久	伊豆洋らんパーク	代表取締役	伊豆の国市
宇野 統彦	(株)桃中軒	社長	沼津市
小野 徹	小野建設(株)	代表取締役	三島市
片山 劫	伊豆総合産業(株)	代表取締役社長	伊東市
勝又 規雄	ライオンファイル(株)	代表取締役社長	裾野市
齋藤 洋	沼津三菱自動車販売(株)	代表取締役社長	沼津市
諏訪部照久	(株)スワベ商会	代表取締役社長	長泉町
土屋 紀雄	(株)土屋建設	代表取締役	下田市
西島 昭男	(株)シード	代表取締役社長	三島市
羽野 久雄	羽野水産(株)	代表取締役社長	沼津市
一杉 真城	ヒトスギ塾	会長	沼津市
室伏 勝宏	みしまプラザホテル	代表取締役	三島市

<地域支援局>

齊藤 民夫	賀茂地域支援局	局長
高橋 登	東部地域支援局	局長

<アドバイザー>

大坪 檀	静岡産業大学	学長
坂本 光司	静岡文化芸術大学文化政策学部 静岡文化芸術大学大学院	教授

<常任顧問>

伏見 一成	静岡新聞社・静岡放送	取締役浜松総局長
篠原 光秋	(株)エスピーエス情報システム	代表取締役社長

<TESS構成員>

西島 昭男	(株)シード	委員長
羽野 久雄	羽野水産(株)	顧問
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	顧問
内田 隆久	伊豆洋らんパーク	委員
宇野 統彦	(株)桃中軒	委員
齋藤 洋	沼津三菱自動車販売(株)	委員
諏訪部照久	(株)スワベ商会	委員
小野 徹	小野建設(株)	委員
大石 人士	(財)静岡経済研究所	研究員
影山 武司	(財)静岡総合研究機構	研究員
中山 勝	(財)企業経営研究所	研究員
青山 茂	(株)シード	研究員



平成18年度を振り返って

サンフロント21懇話会運営委員長
あさひ総合法律事務所 所長

井口 賢明

昨年は9月に初の戦後生まれの安倍首相率いる安倍内閣が発足し、また11月には、57カ月続いた「いざなぎ景気」を抜き、景気拡大局面が戦後最長を更新しました。皇室として41年ぶりの男子が秋篠宮家に誕生した明るい話題もあり、サッカーW杯ドイツ大会も日本チームが1次リーグで敗退したとはいえ大いに盛り上がりました。しかし、官製談合で福島、和歌山、宮崎の各県知事が逮捕され、いじめによる自殺、飲酒運転による死亡事故の多発など、人心の荒廃をもたらす悲惨な事件、事故も相次ぎました。

年末から年始にかけて賞味期限原料を使用した不二家問題が発覚し、電力各社の点検データ改ざん、不正報告、事故隠しが次々と明らかになりました。これまでも食中毒、牛肉偽装、車のリコール隠しなど同様の不祥事が後を絶たず、コンプライアンス（法令順守）の重要性がその都度指摘されてきましたが、なんら省みられないことは残念としかいいようがありません。

自然災害の恐ろしさも再び経験しました。3月末、震度6強の能登半島地震が発生し、海外では昨年5月から7月にかけてインドネシア・ジャワ島で起きた2回の巨大地震で6500人以上が犠牲となりました。また、国際情勢はイラン、イラク、北朝鮮問題は決して楽観できる状況になく、当分目を離せそうもありません。

さて、サンフロント21懇話会は本年度で13年目の活動に入りましたが、18年度事業では7月に伊豆地区分科会として合併に焦点を絞った地域振興シンポジウムを下田で開催しました。テーマは「輝く伊豆南部へ～合併、観光振興を探る～」です。続いて10月には、東部地区分科会として沼津市で技能五輪沼津国際大会を盛り上げるため「静岡のわざ 世界へ」と題してシンポジウムを開き、実際に大会に出場する本県の技術者から大会にかける意気込みをうかがいました。今年2月には、富士市で「ファルマバレープロジェクト 富士山、世界遺産」をテーマに富士地区分科会を開催し、プロジェクト推進に必要な部分である“癒し”について文化・芸術、景観の視点から議論していただきました。

各地区分科会、講演会は会員の皆様方の強力なご支援、ご尽力により、いずれも順調に開催できたと自負しております。懇話会は、本年度も魅力ある東部地域を作り出すにはどうした方策が有効か議論を続けていく所存です。ファルマバレープロジェクト支援の強化はじめ、開催が迫った第39回技能五輪沼津国際大会の支援、合併推進支援、富士山・伊豆地域の観光振興について皆様方に提案し、理解を深めていただきたいと考えております。会員の皆様方にはこれまでの活動に対するご支援に対しまして深く感謝申し上げますと同時に、今後さらなるご理解を賜ることができればと存じます。本年度も宜しくお願い申し上げます。



サンフロント21
懇話会

<http://www.sunfront21.org/>

■ 発行／平成19年 5月29日

〒410-8560 沼津市魚町1番地サンフロント5F 静岡新聞社・静岡放送東部総局内 サンフロント21懇話会事務局 TEL.055-962-6520